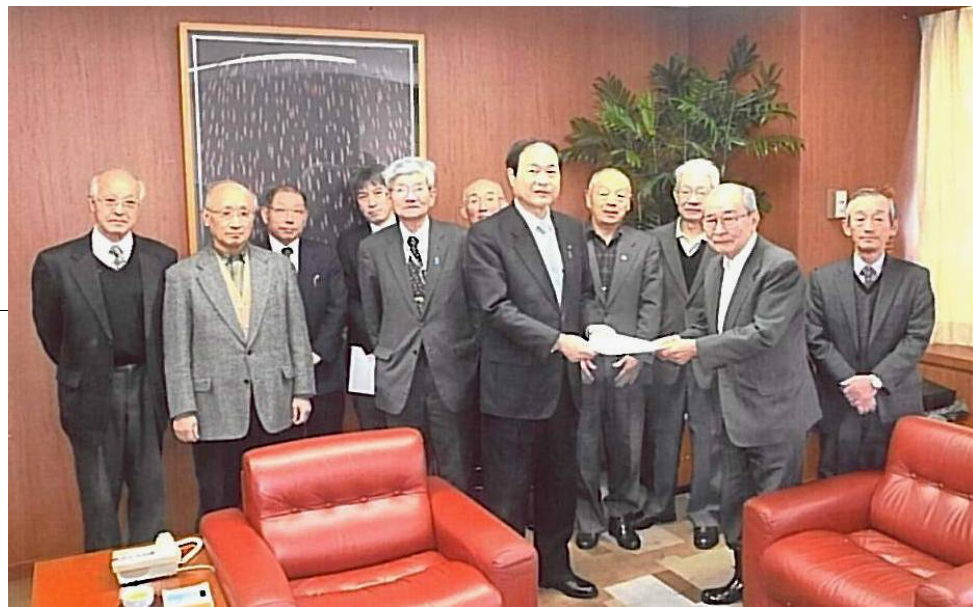


森長岡市長に中越高齢協が要望書提出

「護老人ホーム増設」「原発事故避難対策」等を意見交換



中越地域高齢協と連合中越は、再度特別養護老人ホームの増設や原発事故に対する避難対策などを中心とした「市政要望書」を2月2日(木)に森民夫長岡市長に提出した。

中越高齢協は下田会長ら役員9人と連合中越横澤副議長が、午前10時から森市長を訪ね、両代表が挨拶。森市長からは「市政に對し要望や意見をいただきありがとうございます」と感謝して、事前に要望内容は提出してあり、森市長から各要望項目に従って考え方が示され、「特別養護老人ホームは小



第740号2012.2.11
連合中越地域協議会
長岡市東蔵王2-2-68
TEL 0258-24-0515
FAX 0258-24-8930
発行人 矢島 良彦
定価 1部10円
購読料は会費に含む



規模多機能型を基本として平成26年度までに400床を増設予定している。原発事故に対する避難対策では県

環境保全活動団体交流会開催

11団体が今年度活動を情報交換

環境保全活動を行う11団体が、1月27日(金)18時30分から「2012年度環境保全団体交流会」を煉瓦亭で開催した。この交流会は、毎年

内30市町村での研究会において「実効性のある避難計画」について集中的に議論を進めることにしている」と表明があり、この後も意見交換が行われ有意義な要望会となりました。(中越地域高齢協 山下事務局長)

この日の発行日2月11日は祝日だけど、ハッピーマンデーにはなっていないので、今年は土曜休みの職場は休日をして1日損をすることになる▼なぜハッピーマンデーになつていないのか調べてみるといろいろとおもしろいことが分かった。まず、他の祝日は祝日法で日にちが定められているけど、この建国記念の日だけは「別に政令で定める日」となっていて、法律で定められた日ではない。この祝日は戦前の紀元節を復活させた自民党が何とか祝日の改正をしようとした結果こうなった▼この過程では、昭和天皇の弟宮の三笠宮が歴史学者の立場から、この日を建国記念の日とすることに反対していたこと



副議長 横澤勝之

も分かった。そもそも紀元節自体が明治になってから作られたもので、根拠自体があいまいだという理由だった▼ここで思ったのが成人の日がハッピーマンデーになって、1月15日の「さいの神」などの伝統行事に支障が出てきているという話だ。歴史と伝統に根ざした故郷を愛する心を育てるのであれば、根拠が薄弱で国民生活に根ざしていない2月11日を大切にしないよりも、日本人の心に根ざす、自然を畏敬し地域の絆を大切にする小正月の伝統行事を守るために、1月15日を大切にすることがよほど保守政治の目指すところではないかと思うのだけれど、どうだろうか。



この時期に開催しており、当日は生ごみリサイクルサークルみずばし、NPO法人地域循環ネットワーク、岩村柿川に親しむ会、農機、みつけ元気助け

合いの会、エコファーム新潟、BDF推進協議会、エコクラブ関係、魅力ある大積を創る会に連合中越、S J ネット委員会を加えた41名の参加となった。連合中越では、サークルみずばし、事務局や地域循環ネットワーク

交流会中盤では、各団体代表から今年の抱負を含めた挨拶があった。また、それぞれ1年ぶりに再会する団体もあり、近況や1年間の取り組みなどの情報交換も活発に行われたようだ。

主催者を代表し、サークルみずばしは今年今井代表から「今年各団体の夢と希望が叶う1年としたい」と等と挨拶の後、連合中越地協の小林事務局長の音頭で乾杯し交流がスタートした。

途中、地域循環ネットワークから「今が旬の食材は何?」というアトラクションも飛び出し、和やかな交流会となった。最後は、みつけ元気助け合いの会原田代表の閉会挨拶で終了した。



連合新潟相談ダイヤルキャンペーン 中越地協エリアを街頭宣伝カーが走る

連合新潟の相談ダイヤルキャンペーンが1月17日に佐渡をスタート。中越地協エリアは、1月30日(月)十日町支部、南魚沼支

部、31日は北魚沼支部、小千谷支部。2月1日には長岡市内を廻り街中でアピールし、県央地協へ引き継いだ。

サラリーマン川柳 (パパ帰宅 犬は細目で ママ居留守) (省エネで

家族はコタツで 丸くなる)

(お互いに 本音語らず 無事で居る)

(見たくない 完成途中の 車内化粧)

サラリーマン川柳 (ポイントが溜まった頃に店つぶれ) (高すぎて亭主の前で着れぬ服) (今日遅い?聞かれたその日妻遅い) (ドラマみて泣く夫みて笑う妻)

連合十日町支部だより

1月20日、ラポート十日町におきまして十日町支部の旗開きを開催しました。

今回は例年より規模を縮小し60人ほどの参加者でしたが、お忙しいところ筒井信隆農林水産副大臣も駆けつけていただき、盛大に開催することが出来ました。

アトラクションのビンゴでは、途中まで球の一部を入れ忘れるというハプニングもありましたが、支部で用意した賞品の他に、総合生協中越支局と労金十日町支店からも賞品をご提供いただいたので、全員に賞品が行き渡り喜んでいました。

去年は度重なる災害で痛めつけられた十日町支部管内ですが、山口支部長の災害を吹き飛ばす力強い団結ガンバローで会を閉めました。

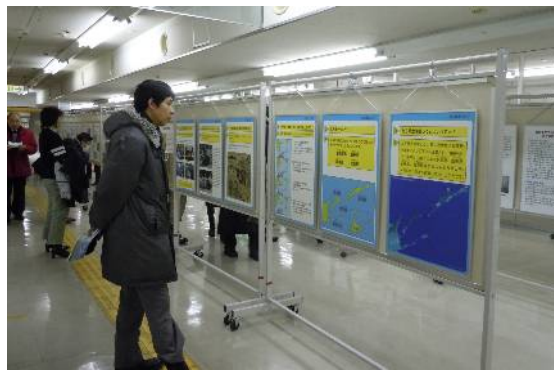


11時30分から、なおか市民センターにて

運動新湊要求市民会議会

「北方領土パネル展」開催

オープニングに中越地協から16名参加



「北方領土パネル展」オープニングセレモニーが開催され、中越地協から16名が参加した。毎年2月7日は「北方領土の日」として定められており、長岡では4日から10日まで開催された。オープニングセレモニーでは、主催者として近藤和義氏(北方領土返還要求市民会議会)が挨拶を述べた。中越地協からは、中越地協の歴史や北方領土の現状、北方領土の返還を求める声などを紹介するパネルが展示された。また、北方領土の歴史や現状に関する写真や資料も展示された。オープニングセレモニーには、中越地協の役員や関係者、市民ら約100人が参加した。中越地協の役員は、北方領土の返還を強く求める旨の挨拶を述べた。また、北方領土の返還を求める声を紹介するパネルが展示された。オープニングセレモニーは、中越地協の役員や関係者、市民ら約100人が参加した。

連合「職場から始めよう運動」

— 共感力UP! みんなで創ろう、

誰もが安心して働ける職場・社会を! —



■「職場から始めよう運動」とは

連合は、すべての働く者の処遇改善をめざして取り組んでいます。そのなかで、2010年から展開しているのが、「職場から始めよう運動」です。

この運動は、労働組合に集まる者として「同じ職場・地域で働く非正規労働者が抱えている問題を、みずからつながる課題として捉え、その改善のために何ができるかを考え、具体的なアクションにつなげることを、それぞれの職場から始めていくこと」をめざすものです。

■非正規雇用問題は職場・社会全体につながっている

パートタイムや有期契約、派遣で働く人たちの問題を放置することで、職場や社会、そして労働組合の活動にさまざまな影響を及ぼすことが懸念されます。

- 職場への影響: コミュニケーション低下など職場の一体感への影響、技術伝承の困難化、安全衛生面のリスク上昇、賃金・労働条件全体の低下など
- 社会への影響: 格差の拡大・固定化、マクロ経済への影響(経済需要の低下、税収減など)
- 労働組合への影響: 職場における発言力低下、職場全体の雇用・労働条件への影響

非正規労働者の処遇改善と組織化は、職場や社会全体、つまり私たち一人ひとりにつながる課題として位置づけなければなりません。

■労働組合だからこそできる取り組み

連合は、非正規労働者に関わる政策の実現を求めて取り組んでいますが、同時に重要なことは、それぞれの職場で処遇改善や組織化に取り組み、それを広げていくことです。雇用形態に関わらず、同じ職場で働く人の声を集め、そこから職場全体に共通の課題を導き出し、解決に向けて行動する取り組みの先頭に立てるのは、労働組合に結集する私たちしかありません。

■すべての働く者のため 共に行動を!

それぞれの職場での取り組みが、産業や社会全体に波及していくことで、すべての働く人の処遇改善・底上げ、希望と安心を持って働くことのできる社会づくりへとつながっていきます。また、この取り組みを通じて、同じ職場で働く者どうしのつながりを強めることで、労働組合活動の活性化にもつながります。

ここ数年、非正規労働者の処遇改善に取り組む労働組合の数は年々増えてきています。この流れをさらに進めていくことが重要です。同じ職場で共に働く仲間のため、家族のため、そして社会全体のために、私たちから行動を始めましょう。